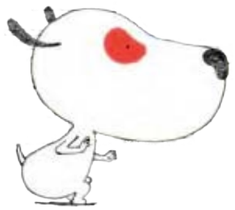
日本と世界のできごと

日本の環境行政の歩み

- ●1950～1960年代
  4大公害
  「水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく」
  をはじめ、全国各地で公害問題が深刻化
- ●1967 公害対策基本法を制定
- ●1968 カネミ油症「PCB」汚染発生
- ●1971 環境庁発足
- ●1972 自然環境保全法を制定
- ●1973 第一次オイルショック
- ●1984 日本の提唱により、国連「環境と開発に関する世界委員会」設置
- ●1988 オゾン層保護法を制定



- ●1993 環境基本法を制定
- ●1994 第一次環境基本計画を策定
- ●1999 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）を制定
- ●2000 循環型社会形成推進基本法を制定
- ●2000 第二次環境基本計画を策定
- ●2001 環境省発足
- ●2006 第三次環境基本計画を策定
- ●2008 生物多様性基本法を制定

1950年代 | 1960年代 | 1970年代 | 1980年代 | 1990年代 | 2000年代

世界のできごと

- ●1950年代 ロンドンでスモッグにより多数の死者がでた（イギリス）
- ●1962 レイチェル・カーソン「沈黙の春」を出版

- ●1971 水鳥や水生生物の生息地である湿地の保全のための「ラムサール条約」採択
- ●1972 ローマクラブ「成長の限界」を出版
- ●1973 絶滅危惧種の保護のための「ワシントン条約」採択
- ●1978 船舶からの廃棄物等の排出規制のための「マルポール条約」採択
- ●1985 オゾン層保護のための「ウイーン条約」採択
- ●1987 フロン等の規制のための「モントリオール議定書」採択
- ●1987 環境と開発に関する世界委員会報告書「我ら共通の未来」発表
- ●1988 IPCC「気候変動政府間パネル」設立
- ●1992 国連環境開発会議「地球サミット」開催（リオデジャネイロ）
- ●1997 COP3 気候変動枠組条約第3回締約国会議開催＜京都議定書採択＞
- ●2001 POPsに関する「ストックホルム条約」採択
- ●2002 国連持続可能な開発のための世界サミット「リオ＋10」（ヨハネスブルグ）
- ●2010 COP10 生物多様性条約第10回締約国会議開催（名古屋）
- ●2012 国連持続可能な開発会議「リオ＋20」開催（リオデジャネイロ）

■国連持続可能な開発会議（リオ＋２０）

2012年6月にブラジルのリオデジャネイロで持続可能な開発についての国際会議が開催されます。

RIO+20 United Nations Conference on Sustainable Development

■主要なテーマ

- **●持続可能な開発及び貧困撲滅のためのグリーン経済**
- **●持続可能な開発のための国際枠組み**

■生物多様性条約第10回締約国会議

2010年10月に愛知県名古屋市で生物多様性を守るための国際会議が開催され、愛知目標が採択されました。

■愛知目標（戦略計画2011－2020）

●2050年までに達成する目標（長期目標＜2050年＞）

「自然とともに暮らす世界を実現します」

生物多様性の大切さを理解し、それをまもり、じょうずに利用することが大切です。2050年までに、みんなが分けへだてなく生物多様性のめぐみを受け、地球に暮らし続けることができる世界をめざします。

●10年後までに達成する目標（短期目標＜2020年＞）

「生物多様性の損失を防ぐため、効果ある行動をすぐに実行します」

地球のめぐみを平等に受けとるためには、生物多様性のめぐみを使いすぎないこと、種の絶滅を防ぐことが大切です。2020年までに、あらゆる人が参加して、生物多様性をまもるための行動を起こします。

■気候変動枠組条約第16回締約国会議

2010年11月にメキシコのカンクンで地球温暖化を防止するための国際会議が開かれ、カンクン合意が決定されました。

■カンクン合意

アメリカや中国を含め、先進国と途上国の双方が同じ枠組みで温室効果ガスの削減に取り組むことや、削減の効果を検証する仕組みを導入することが合意されました。